

V-3

染色体転座関連遺伝子発現に基づく病型分類は骨髓腫患者の生命予後予測に有用である。

稲垣 淳¹、飯田真介¹、伊藤 旭¹、田島恵美¹、三田貴臣¹、矢野寛樹¹、李 政樹¹、
粥川 哲²、丁 建民¹、楠本 茂¹、石田高司¹、花村一朗³、速水芳仁¹、小松弘和¹、
稲垣 宏⁴、上田龍三¹

名古屋市立大学医学部腫瘍・免疫内科学¹、名古屋記念病院 血液化学療法科²、
愛知医科大学 血液内科³、名古屋市立大学医学部 臨床病態病理学⁴

【目的】多発性骨髓腫における主要な染色体転座関連遺伝子である CCND1(11q13)、FGFR3/MMSET(4p16)、c-Maf(16q23)の発現と、臨床病態との関連を明らかにする。【方法】遺伝子検査に同意した症候性骨髓腫および形質細胞白血病の患者 64 名より骨髓液を採取し、抗 CD138 抗体ビーズを用いて患者形質細胞を純化した後、PCR 法にて CCND1、FGFR3/MMSET、c-Maf 発現量を測定した。【結果】全 64 例中 19 例(30%)が CCND1 陽性、15 例(23%)が FGFR3/MMSET 陽性、6 例(9%)が c-Maf 陽性であった。27 例(42%)はいずれの遺伝子も発現していなかった (All Negative, AN 群)。CCND1 陽性例は全例 FGFR3/MMSET 陰性かつ c-Maf 陰性であった。生存期間中央値(MST)は CCND1 陽性群、FGFR3/MMSET 陽性群、c-Maf 陽性群でそれぞれ、2.9 年、2.2 年、0.8 年であり、それぞれ AN 群(観察期間中央値 2.7 年の時点で達せず)と比較し有意に短かった。CCND1、FGFR3/MMSET、c-Maf の 1 つでも発現している群、すなわち非 AN 群を染色体転座関連遺伝子発現群と定義したところ、明瞭に予後不良群を抽出することができた。【結論】骨髓腫での染色体転座関連遺伝子(CCND1、FGFR3/MMSET、c-Maf)発現は、強い生命予後不良因子である。